

【理工系（工学Ⅱ）】

ギリシア古代都市メッセネおよびフィガリアの建築と都市環境に関する学際的研究

いとう じゅうこう
伊藤 重剛

(熊本大学・大学院自然科学研究科・教授)

【研究の概要等】

1) フィガリアの古代都市の現況と調査内容

ギリシアの古代都市フィガリアは、ペロポネソス半島西側の山間部に位置しており、オリンピアから南に約100kmの位置にある。ほとんど未発掘の遺跡で、都市の範囲はおおよそ東西2.5km、南北1.5kmの広さで、アクロポリスから東西に連なる城壁が約1km残っている。古代の記録によると、市内にはアルテミス神殿、ギムナジオン（体育場）などがあるとされている。2世紀のローマの旅行家パウサニアスによる「ギリシア記」にも、町の様子が記述されている。本研究では、第一次の5カ年の計画で発掘調査を行ない、古代都市フィガリアの地形的特徴、都市全体の概要を明らかにし、一部建築遺構については重点的な研究を行なうものである。

2) メッセネの劇場の建築的研究

メッセネについては、これまで10年間ギリシア隊との共同調査を行なってきた。都市域は3km四方の広さで、城壁をはじめ神殿、アゴラ、劇場、住宅などの建築遺構が出土している。研究代表者は、すでにスタディオン（陸上競技場）付属の家型墓群、アスクレピオス神域、メッセネ神殿を調査した実績がある。劇場の発掘はギリシア隊によりほぼ終了しており、現在は建築調査を待つばかりの状態、今回の調査では劇場遺構の調査と復元、および歴史的位置付けの研究を行なう。

【当該研究から期待される成果】

本研究は発掘調査を伴う、建築史、考古学、美術史等を含めたギリシア古代都市の総合的研究である。特にフィガリアは未発掘の都市遺跡であり、日本隊の研究対象として将来長く継続される可能性をもっている。ギリシア古代遺跡の発掘は、日本の研究チームによる初めての試みで画期的であり、これにより世界の古代ギリシア研究に大きな国際貢献ができる。

発掘調査は考古遺物をはじめ建築遺構の出土をもたらすので、研究は様々な分野に波及し、オリジナルの研究の場と材料を与え、結果として若手研究者を育成に寄与する。また研究者の相互の共同作業や研究交流を促し、国内のみならず国際的にも将来の研究活動の人脈を育てることにもなる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- J. Ito, et al. “New Measurements and Observations of the Treasury of Massaliotes, the Doric Treasury and the Tholos in the Sanctuary of Athena Pronaia at Delphi” 九州大学出版会, 全2巻, 2004年
- J. Ito, “A Concave Conical Roof on the Square Grave Monument I at the Hellenistic Site of Messene” G. Lavas, ed., *Sto Belos tou Xronou*, University Studio Press, Athens, 2005, pp. 307-310
- 林田義伸, 伊藤重剛, 吉武隆一, 「ギリシア古代都市メッセネのアスクレピオス神域の建築及び考古学的国際共同調査」, 日本学術振興会科学研究費補助金報告書, 基盤(A)海外, 課題番号16254005, (研究代表者 伊藤重剛) 全212頁, 2007,

【研究期間】 平成20年度－24年度

【研究期間の配分（予定）額】

92,800,000 円 (直接経費)

【ホームページアドレス】 http://www.arch.kumamoto-u.ac.jp/itobj_lab/home.html